

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救急出場中、傷病者が観察中に突然暴れだし、救急隊員が右手首を負傷したもの。
3. 体験した事例の中心的要素	傷病者は外国人のため、これから実施する処置等について、通訳を介して説明をし観察を行っていたが、急に不穏状態になり暴れだした。
4. 体験した事例の原因・理由	通訳を介してであるが、患者とのコミュニケーションがとれていると感じていたため、突然不穏状態になったり、暴れるといった状態の変化を予想できなかつた。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成 15 年 2 月 22 日 午前 4 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：岸壁上
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	その他：蹴られた
7. 事例体験時の活動	救急、現場活動初期 []
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	応急処置
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[31]歳、 勤続年数[13]年、 現場経験年数[13] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [1年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	覚知、出場	
経過 2	A	現着	
経過 3	A	患者収容、観察実施	
経過 4	A	患者が暴れだし受傷	
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

その他：外国人ということから、言語的コミュニケーションや非言語的コミュニケーション（表情・姿勢・ボディーランゲージ・位置関係とアイコンタクト、目線と目配り）に問題があったと思う。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。

b 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

以前より外国人患者を想定し、「外国人救急チェックシート」を作成し対応していたが、突然の状況変化には言葉やシートでは対応できないこともある事が分かったので、「言語的コミュニケーション」が難しい外国人に対しては「非言語的コミュニケーション」いわゆる日本の「気配り・目配り」するよう注意を促している。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

寒冷の時期であり、屋外での観察は困難な状況ではあったものの、屋外であれば逃げることは可能であったが、狭隘な車内での活動には制限があり、かつ避難も容易ではないため、救急車の緊急停車と必要であれば警察官の現場への要請も視野に入れて活動することを再確認した。

○指揮・情報伝達の対策について